

ポイント

◇◆特集◆◇

★道路の老朽化対策に向けた大型車両の通行の適正化方針について★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課 車両通行対策室)

道路の老朽化対策に向けた大型車両の通行の適正化方針について解説する。

◇◆訴訟事例紹介◆◇

★台風による大雨で、道路が冠水し、  
車両が水没した事故について、道路の管理瑕疵が争われた事例★

〈平成25年4月17日 千葉地方裁判所判決〉

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

自動車が生道を走行中に降雨による冠水箇所で大水没して故障した事故に関し、自動車を所有する原告が、生道を設置管理する被告に対し、その設置管理の瑕疵（①側溝に土砂等が堆積して降雨時に冠水する常置を放置したこと、②注意を促す看板の設置や通行止めによる事故防止措置を怠ったこと）を主張して、国家賠償法2条に基づき、自動車の修理費用相当額の損害賠償を求める事案。

【判決要旨（請求棄却）】

道路側溝の状態にかかわらず冠水は回避困難な降雨量であったこと等から、本件道路の管理に瑕疵があったとはいえない。

◇◆TOPICS◆◇

★舞鶴若狭自動車道の全線開通と整備効果について★

(中日本高速道路株式会社 名古屋支社・金沢支社)

平成26年7月20日(日)15時、舞鶴若狭自動車道の小浜ICから敦賀JCT間(約39km)が開通しました。本稿では、今回の開通により全線開通した舞鶴若狭自動車道の整備効果についてご紹介します。

.....

## ★オフィス街ロードクリーン2014★

(国土交通省 道路局 国道・防災課)

平成26年8月5日(火)、東京都内の中央官庁や民間のビルに勤務する人たちや地元町会による歩道の清掃が行われました。

当日は、約1,000名の方々にご協力をいただき、タバコの吸い殻などのゴミ、枯葉など、延長約10kmの歩道を清掃しました。

---

## ◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

### ★地域特性に合わせた路上工事について★

(中部地方整備局 名古屋国道事務所 管理第一課)

道路行政の大きな課題の一つとして、道路維持管理のため必要不可欠な路上工事による交通渋滞の発生があげられます。愛知県豊田市は、日本を代表とする自動車関連工場が集中する市であり、お盆期間は、自動車関連企業のお休み期間となり、通常の工場が稼働している日と比べると、走行する車両が格段に減る状態になります。本稿では、こういった地域特性に合わせた路上工事について紹介いたします。

.....

### ★潜水橋における出水時の通行規制措置について★

(徳島県 県土整備部 道路局 道路整備課)

吉野川に架かる潜水橋は、その水位上昇により冠水が発生するため、出水時には通行規制措置を行う必要がある。このため、パトロールを行うとともに、降雨データや上流のダムの放水量などの気象情報・水防情報を常時確認しながら、規制を的確に実施し交通の安全に努めているところである。本稿では、川島橋を例にとり、出水時の具体的な対応を紹介する。

.....

### ★徳島市における道路管理の現状と課題★

～道路ストックの総点検と老朽化対策～

(徳島県 徳島市 土木部 道路維持課・道路建設課)

徳島市では、橋梁や道路付属物の点検とともに、路面性状調査を実施しています。本稿では、これらの調査を踏まえ、老朽化が進む道路の維持管理への対策について紹介します。

## ◆◆編集後記◆◆

ここ数年の日本の夏は、各地で最高気温が40度を超える厳しい暑さに見舞われ、湿度も80%を超える日が多く、高温多湿で過ごしづらい夏が続いています。

今年も、異常ともいえる暑さのせいで、夏期（7月～9月）の間に、熱中症で搬送された人が全国で4万人（5年前と比べてほぼ2倍）を超え、厳しい暑さが記憶に残る夏となりました。

気温や湿度が高くなると、冷房に頼りがちとなり、もはや冷房を使わずに夏を過ごすことは考えられません。しかし、冷房が一般家庭に普及したのは、昭和41年ごろからなので、それ以前は、知恵を絞り、暑さを和らげる工夫がされていました。たとえば、食べ物では、トマトやスイカなど体温を下げる効果のある食材を取り入れ、また、軒先にすだれをかけることで、風の通り道を確認しつつ直射日光を防いでいました。このほか、風鈴を吊るして“チリンチリン”という音色から涼を感じることも工夫のひとつでした。なかでも、軒先に水を撒く「打ち水」によっても涼が取られていたこともあり、最近、夏になると「打ち水」イベントが話題になります。これは、都市部のヒートアイランド現象を緩和することを目的として、決められた時刻に、一斉に「打ち水」をすることで、どのぐらい気温の低下に貢献するのかを検証する社会実験がきっかけとなりました。「大江戸打ち水大作戦」と称し、平成15年8月25日の正午、日本橋や都庁などの都内数カ所で、推定34万人によって一斉に「打ち水」がされました。実験の結果、周辺の気温が1～2度下がったことから、その後、「打ち水大作戦」と名称を変え、市民運動として全国各地でイベントが行われるようになりました。誰でも気軽に参加できるので、毎年、推定600万人以上が参加する広がりを見せています。ちなみに、日本橋では、浴衣姿で行い、見た目からも涼を取り入れる工夫がされています。

もともと「打ち水」は、客人が通る道に水を撒いて清めておくという、茶道での礼儀作法でしたが、土ぼこりを抑えるとともに、涼しさを感じられる効果があったことから、実用的な庶民の知恵として、江戸時代から日常的に取り入れられてきました。今では、一戸建ての住宅が減り、軒先に「打ち水」をしている光景を目にすることも稀となり、少しさみしく感じています。冷房の普及によって、スイッチひとつで涼しく快適に過ごせる世の中になりましたが、昔ながらの知恵を取り入れ、工夫することの大切さに気付いた夏となりました。（K）